Plácido Domingo Premium Concert

プラシド・ドミンゴ プレミアムコンサート

50年以上にわたり
世界のオペラ界を牽引してきた
ドミンゴが日本のファンに
届ける**最後の贈り物**

5月9日(木)

18:30開演

一般発売日
12/9日(土)10:00～

フェスティバルホール

出演：プラシド・ドミンゴ
アデーラ・ザハリア
(ソプラノ)

指揮：マルコ・ボエーミ

関西フィルハーモニー管弦楽団

S席 31,000円　A席 26,000円　B席 21,000円
C席 16,000円　D席 11,000円
BOX席 45,000円　SS席 38,000円
(全席指定・税込)

演奏予定曲目

ジョルダーノ
歌劇《アンドレア・シェニエ》より第3幕「祖国の敵」

ヴェルディ
歌劇《マクベス》より 第4幕「裏切り者め！ 憐み、誉れ、愛」

ヴェルディ
歌劇《椿姫》より ヴィオレッタとジェルモンの二重唱　他

※やむを得ず、曲目は変更となる場合がございます。
あらかじめご了承のほどお願い申し上げます。

チケット取り扱い

フェスティバルホール
06-6231-2221 (平日 10:00～18:00)
オンラインチケット(要事前登録) https://www.festivalhall.jp
(窓口販売は 12/10(日)～ 残席がある場合のみ)

チケットぴあ https://t.pia.jp/ (Pコード：256-553)

ローソンチケット https://l-tike.com/ (Lコード：56161)
発券開始日以降は**ローソン、ミニストップ**で取り扱い。

e+(イープラス) http://eplus.jp/

CNプレイガイド 0570-08-9999 (オペレーター対応 10:00～18:00)
(ファミリーマート店内マルチコピー機から) https://www.cnplayguide.com/

楽天チケット https://r-t.jp/placido-domingo

※未就学児のご入場はお断りさせていただきます。
※お申し込みいただいたチケットのキャンセル・変更はできません。

お問合せ
キョードーインフォメーション 0570-200-888 (11:00～18:00 日祝休み)

主催　読売テレビ　フェスティバルホール　キョードー大阪　コンサート・ドアーズ

©Fiorenzo Niccoli

©Fiorenzo Niccoli

プラシド・ドミンゴ プレミアムコンサート

Plácido Domingo Premium Concert

いまドミンゴを聴く。それは奇跡を現実にすることである

香原斗志（オペラ評論家）

プラシド・ドミンゴというと「三大テノールの」と形容されるが、三大テノールが集まるずっと前から特別で、いまなお特別すぎる歌手である。

全盛期のドミンゴは、歌唱はノーブルかつスタイリッシュで、魅惑的な声は艶やかで輝かしく、出演すれば常に「特別な舞台」になった。指揮や作曲も学んでいて、高い音楽性は並み居る歌手のなかで特別。演劇的な説得力もひときわ高い。全方位的に完璧な「スーパー歌手」だった。

だが、これは昔を懐かしむ話ではない。ドミンゴはいまも「スーパー歌手」だという事実自体が「スーパー」である。

現在、歌っているのはバリトンのレパートリーが中心だが、声の艶も、輝かしさも、力強さも、凛としたフレージングも健在だ。むろん昔と同じではないが、80歳を超えてこの歌の力には戸惑いすら覚える。2022年にゲオルギューと歌ったときも、23年のカレーラスと行ったコンサートでも、言葉を失った。

この年齢の歌手は、声が維持されていたとしても、たいていは息がもたない。ところがドミンゴは、いまも長く美しいフレージングを聴かせる。それは身体能力を含めて奇跡と呼ぶほかないが、そのおかげで、ほかのだれにも不可能な圧倒的なキャリアを重ねてはじめて得られるオーラと無二の味わいがかみ合って、歌からにじみ出る。

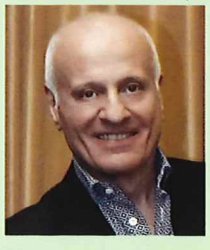
そんな歌手は、オペラの歴史上はもちろんのこと、あらゆる歌の世界にこれまでいただろうか。いまドミンゴを聴くということは、それほど特別なことである。

©Kaori Suzuki

プラシド・ドミンゴ（テノール、バリトン）
1941年にスペインのマドリードで生まれる。スペインの歌劇「サルスエラ」の劇団を主宰する両親とメキシコに移住し、メキシコシティ国立音楽院を修了。59年にメキシコ国立歌劇場にデビューした。それから65年近く経ちながら、いまもオペラの舞台に立ち続けている。70年代にはすでに世界の著名劇場や音楽祭を席巻し、公演のたびに熱狂を巻き起こすトップ・スターだった。パヴァロッティ、カレーラスとともに世界中を沸かせた「三大テノール」の最初のコンサートからも、30年以上が経過している。400年を超えるオペラの歴史で、これほど長く舞台で歌い続けた例はほかにない。しかも、艶がある魅惑的な声もノーブルな表現力も衰えは最小限で、いまなお若い歌手を寄せつけず、公演のたびに熱狂を巻き起こしている。オペラのレパートリーは150前後といわれ、その数も過去に例がない。あらゆる常識を覆しつつ、いまも快進撃を続ける、正真正銘の「不世出の歌手」である。

©Liviu Popa

アデーラ・ザハリア（ソプラノ）
ルーマニアに生まれ、ベルリン・コーミッシェ・オーパーやライン・ドイツ・オペラのアンサンブル・メンバーとして活躍後、2017年にドミンゴ主宰のコンクール「オペラリア」で第1位とサルスエラ賞を獲得。すぐにバイエルン州立歌劇場の《ルチア》にデビューし、その後は、英国ロイヤル・オペラやパリ・オペラ座をはじめ世界各地でセンセーションを巻き起こしている。少し陰のある硬質な声を全音域で自在に操り輝かせる歌唱は比類ない。



マルコ・ボエーミ（指揮）
ローマ出身で、サンタ・チェチーリア音楽院でピアノと指揮を学んだが、ラ・サピエンツァ大学の法学部も卒業している。ロンドンで研鑽を積んだ後、数々のコンクールに入賞し、世界有数の歌劇場や音楽祭で演奏を重ねてきた。オペラの指揮で名高いが、モーツァルト、ベートーヴェン、マーラーなどオーケストラ曲のレパートリーも広い。ドミンゴのほかパヴァロッティ、ブルゾン、ネトレプコら大歌手との共演も多く、厚く信頼されている。